

平成 30 年度 高齢者支え合いコミュニティ支援事業団体

| | | | |
|---------|------------|-----------------|--------------------------------|
| 組織名 | 青木第二長寿会 | 代 表 | 会長 <small>あおきよしひと</small> 青木良仁 |
| 地域（市町村） | 県北（福島市飯野町） | 加入世帯数 （所属人数） | 45 世帯（57 名） |

（1）町内会の特徴

市の最南東に位置する飯野町青木地区にある。飯野町は人口約 5,700 名で、11 年前に福島市と合併した地域である。かつては養蚕を営む農業が盛んで、多数の機織工場があった。現在は米・野菜・果物を梅雨信とする農業圏ではあるが、従事者の高齢化に伴い、農業離れが加速している。従って長寿会メンバーはかつて農業従事者を中心に、近在する会社や向上に勤務したサラリーマン及び専業主婦で構成されている。

（2）事業実施背景

会では高齢化が進み、新人の入会が望まれている。固定された従来からの長寿会行事や事業では、多くの 60 代の人々に長寿会の楽しさが伝わりにくい状態であった。そこで魅力ある事業を多数展開し、地域に長寿会の活動をアピールする必要があると考えた。地域の人々との異世代間交流や、飯舘村からの避難者との親睦を図るための事業を実施し、より多くの地域の人たちに長寿会を理解していただき、意欲のある人材の発掘を図りたいと考えた。

（3）本年度事業実施内容と今後の方向性

H30 年の 11/23 の「野菜と果実のつるし雛祭」が多くの思い出と実績を得ることができた。8 月から準備をし、多くの会員の作品を 500 点以上展示することができた。のべ 300 名以上の参観者を得ると共に、飯舘村からも展示に参画して頂くなど多くの方々からの指示と理解を得ることができた。さらに、本年は飯野つるし雛まつりにも参加することとなった。地域の高齢化が進む中、高齢者が地域の活性化を担う必要があると考える。そこで長寿会員の多種多様で高度な専門性を持った人材を活用し、地域づくりの一助になりたい。そのためには、会が内向きにはならず、外に向けて発信できる仕組みづくりを図る。さらに他団体との積極的な連携を効果的に測れる人材の育成に努める。

<顔を輝かせて取り組む姿>

会長の青木氏は、「長寿会としてまずは自分達自身がやって楽しいことが基本。そして、昔取った杵柄を本会にて活かしてもらいながら、役割をもって活躍してもらうことに意味がある。」と話される。今後は、若い人を巻き込みながら地域一体となり進めていきたいとのことである。行政・町内会・育成会・学校・包括等との連携基盤を活かしつつ、どう展開をしていくかが課題であり楽しさであるとのことである。

「我ら長寿会の自慢すべきところは、さまざまな事業に積極的に参加していること。事業に取り組むときの会員一人一人の顔が輝いている。」これからの青木地区の活躍に期待をしたい。

①会長の青木良仁さんは元高校の美術教師。上記の「春夏秋冬・四季のいいの」もすべて手作り。



②取材日は今年度行った事業を映像で振り返りながら、来年に向けてどんなことをやりたいか会員皆で話し合っていた。



③「大収穫祭」に向けての準備作業。裁縫の得意な会員を中心に、作業とおしゃべりが同時並行で進み、楽しい時間となった。



④「大収穫祭」で飾った作品のうちの一つ。大小さまざまな豆が可愛い。



⑤「大収穫祭」が大変盛況だったため、「飯野つるし雛祭り」への参加も決定した。



⑥会長が自作の管板とともに、会員それぞれの「輝いた顔」が垣間見える。

